

推進体制

希望が丘東地区支えあい連絡会…

連合自治会、地区社会福祉協議会、民生委員児童委員協議会、保健活動推進員、老人クラブ(第三支部・第四支部)、福祉・医療関係

第3期の振り返り

令和元年度に、移動スーパーを実現した「地域サポート希望が丘東」と、有償ボランティアが日常の困りごとをお手伝いする「きぼうの手」が設立され、御利用の皆さんの笑顔に元気をいただいています。

活動の多くが休止した新型コロナ禍、1年以上のブランクを越え、感染防止対策と両立できるよう見直し、そろりそろりと活動を再開させています。活動は安心・改善・前進と成長がポイントです。

最寄り駅やバス停が遠い地域の移動手段確保を目指し、「今宿周辺にミニバスを走らせる会」が、令和2年4月に横浜市の地域交通サポート事業グループに登録され、補助金を受け活動を展開しています。ミニバスが実現したら「みんなで築く生き生き活力ある街」も近づいてきますね。

地域福祉保健施設の分布



施設リスト

子ども施設

- ◆ 認可保育所
 - ① 中尾保育園
 - ② つばみ保育園
 - ◆ 認定こども園
 - ③ 希望ヶ丘幼稚園
 - ④ 希望ヶ丘保育園

- ◆ 横浜保育室
 - ④ ザ・チャイルドクラブ 希望が丘
 - ◆ 幼稚園
 - ⑤ つくの幼稚園

高齢者施設

- ◆ 特定施設入居者生活介護(有料老人ホーム)
 - ① 中銀ライフケア横浜希望ヶ丘
 - ② ライフコミュニケーション希望が丘
 - ③ 中銀ケアホテル 横浜希望ヶ丘

第4期

きらっとあさひプラン

希望が丘東地区



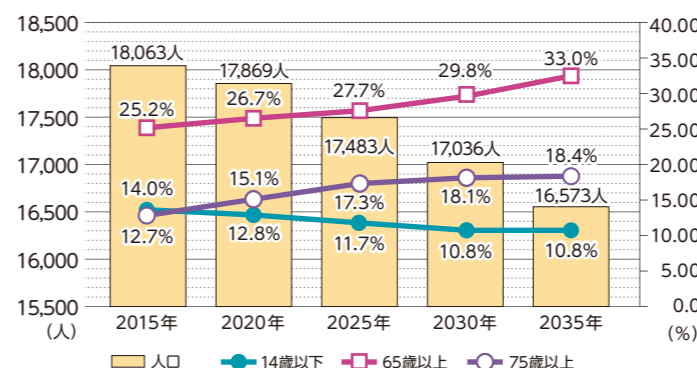
希望が丘東地区は、希望ヶ丘駅北側一帯の、総じて南斜面の丘陵地を中心とした地区ですが、何本かの谷戸筋が入り、地形の構成は複雑です。戸建て住宅を中心に、集合住宅が散在しています。



DATA

将来人口推計

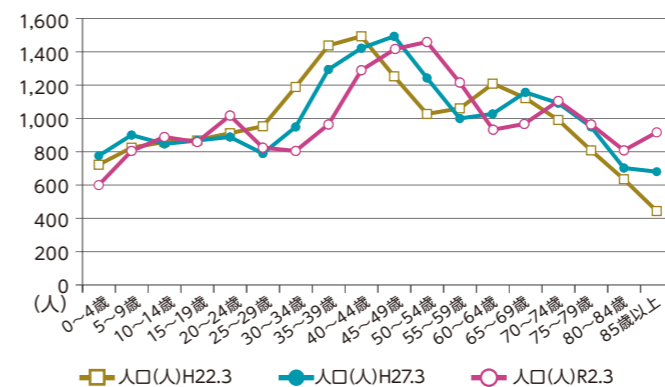
出典：横浜市統計ポータルサイト「町丁別世帯と男女別人口」(各年3月末現在)



将来人口推計は、今後も減少が推測され、65歳以上の比率は2035年頃には30%を超えます。14歳以下の比率は、2030年に10%台になることが推測されます。

年齢5歳別人口の動向

出典：横浜市統計ポータルサイト(各年3月末現在)



平成22年には40～44歳であった5歳別人口数のピークは、令和2年には50～54歳となっています。また、平成22年・27年に比べて0～9歳の5歳別人口は減少、70歳以上の5歳別人口は増加しています。65歳以上の高齢者の割合は、平成27年には25.2%、令和2年には26.7%となり、高齢化が進んでいますが、区平均の29.2%よりはやや下回っています。

人口、世帯数、年齢別人口等の動向

	H22	H27	R2	H22～R2増減数	H27構成比(%)	R2構成比(%)	R2区平均構成比(%)
総人口(人)	17,778	18,063	17,869	91	100.0	100.0	100.0
0～14歳(人)	2,416	2,528	2,295	▲121	14.0	12.8	11.6
(内0～6歳)(人)	1,039	1,163	906	▲133	6.4	5.1	4.9
15～64歳(人)	11,381	10,981	10,805	▲576	60.8	60.5	59.2
65歳以上(人)	3,981	4,554	4,769	788	25.2	26.7	29.2
(内65～74歳)(人)	2,106	2,258	2,071	▲35	12.5	11.6	13.2
(内75歳以上)(人)	1,875	2,296	2,698	823	12.7	15.1	16.0
総世帯数(世帯)	7,728	7,896	8,166	438	-	-	-
平均世帯規模(人/世帯)	2.30	2.29	2.19	▲0.11	-	-	2.13

出典：横浜市統計ポータルサイト「町丁別世帯」、「町丁別年齢別男女別人口」(各年3月末現在)

※人口・世帯数の数値は町丁目別単位での集計のため、町丁目が地区をまたぐ等により、実際の数値と一致しない場合があります。

私たちが描く地区の未来図

『みんなで築く生き生き活力ある街』

子どもから高齢者まで、いつでもみんなが「助け合い」「支え合い」「見守り」「ふれあい」、
いつでも安全に安心して暮らせる地域

目標と主な取組

目標 A 支援が必要な人に対する共助の推進

④ 日常生活の「困った」をお手伝い

▶ ボランティア団体「地域サポート希望が丘東」の協力を得て、移動スーパーが地区内5か所で週2回販売、宅配サービスも実施します。▶ 食品ロスを無くす「もったいないバザール」を月1回開催します。▶ ボランティア団体「きぼうの手」が、お手伝いが必要な高齢者世帯や障害がある方に、有償で支援を行います。



▲移動スーパー

④ 自治会・町内会館で高齢者向けサロンや脳トレを開催

▶ 高齢者の憩いとふれあいの場として「サロン散歩道」を開催します。▶ 高齢者が楽しく脳トレできるスクエアステップで、認知症予防と健康維持を目指します。



▲「きぼうの手」が剪定

④ 親子サロン、赤ちゃん教室等を開催し子育て支援

▶ 民生委員児童委員やボランティアが、赤ちゃん教室を2会場（春ノ木会館・中尾町会館）で毎月1回開催、親子サロンを今宿地域ケアプラザで毎月1回開催します。
▶ リトミック講座を上・下期に各4回、小児救急救命講座を年1回開催します。



▲リトミック講座

④ 障害者への理解と支援ボランティアの募集

▶ 障害者理解のための研修実施とともに、障害者と家族等支援のボランティアを募集します。

目標 B 日頃から顔の見える関係作り

④ 地域住民みんなが参加する夏祭りの開催

▶ 連自治会を中心に、小・中学生のダンスや器楽演奏、盆踊り、模擬店などの夏祭りを開催し、地域交流を進めます。

④ 下校時一斉パトロール、登下校時見守り活動を実施

▶ 連自治会を中心に、小学生の下校時パトロールを年4回実施します。
▶ 自治会・町内会ごとに毎日の登下校時に見守り活動を実施します。



▲下校時一斉パトロール

④ 高齢者の健康、安心・安全な生活を続けられる講習・研修会の開催

▶ 各所で体操グループが活動します。▶ 高齢者を対象に詐欺等防止研修会を開催します。

④ 世代間交流と食事を楽しむ憩いの場として地域食堂を開催

▶ ボランティアを中心に地域食堂「らんらん食堂」を毎月1回、今宿地域ケアプラザで開催します。

目標 C 平時から地域で助け合う関係作り

④ 災害時要援護者調査の実施

▶ 連自治会、地区社会福祉協議会、民生委員児童委員協議会の3者で災害時要援護者調査票「災害時安全カード」を作成し全世帯に配布、要援護者について調査します。安全カード提出世帯には、「カード保管ボトル」や「安否確認タオル」等の防災グッズを配布します。



▲安否確認タオル
門扉にかけたり、
郵便受けに挟んだり

④ 自治会・町内会ごとの防災組織づくりの推進

▶ 「減災対策および災害時要援護者支援の手引き」を活用して、それぞれの自治会・町内会にあった組織づくりをサポートします。

④ 避難所訓練時に要援護者に対する安否確認訓練を実施

▶ 災害時を想定して実施する地域防災拠点での避難所訓練にあたり、要援護者への安否確認を加えて行い、地域における「要援護者の見える化」を進めます。



▲東希小地域防災拠点訓練

④ 災害時に地域が支え合うための防災訓練を実施

④ 高齢者にお弁当を配食、昼食会を開催

▶ 一人暮らし高齢者や80歳以上の高齢者世帯の希望者に月2回お弁当を配食、または昼食会を毎月1回開催します。

目標 D 小中学生が地域行事に参加、福祉体験できる機会の拡大

④ 小中学生ボランティアが様々な地域行事に参加、交流

▶ 地域一斉清掃として中学生ボランティアが連自治会や各種団体とともに主要道路を清掃、小学生が地域住民とともに生活道路を清掃、きれいな街づくりへの関心を育てます。▶ 中学生ボランティアが夏祭りやふれあい広場の運営に参加し、地域交流を深めます。▶ 地域防災拠点避難所訓練に中学生ボランティアが参加し、地域防災への理解を深めます。

④ ジュニアボランティアが地域の福祉活動を体験

▶ 民生委員児童委員の協力で小学校6年生のジュニアボランティアが老人ホーム等の訪問や高齢者昼食会を通じてふれあい・交流します。▶ 赤い羽根共同募金や、ふれあい広場等の模擬店での販売を体験します。



▲ジュニアボランティア福祉体験

目標 E 地域の取り組みを支える仕組みづくり

④ 世代間交流を目的としたふれあい広場の開催

▶ 世代間交流の機会を通して、地域の人々がふれあいや親しみをもてるよう、地区社協が主催するふれあい広場で、連自治会や各種団体の協力を得て福祉バザー、模擬店、餅つき、伝承遊び等を行います。

④ 小学1年生を対象に、老人会有志が昔遊びで交流会を実施

④ 小学5、6年生を対象に、老人会のミシンボランティアがミシンの使い方を指導

④ 子ども達に「なかおバタフライガーデン」で学びの場を提供

▶ ボランティアが運営する「なかおバタフライガーデン」（中尾小校庭内）で、蝶が羽化する花壇をつくり、同校児童や幼稚園・保育所児達に学びの場を提供します。



▲ふれあい広場での紙芝居